

吉田書店6月末刊行予定

拷問をめぐる正義論——民主国家とテロリズム

ミシェル・テレスチェンコ著/林昌宏訳

(ISBN : 978-4-905497-65-3 C1031 四六判ソフトカバー 290頁 本体価格 : 2,800円)

民主的な社会において拷問は許されるのか

9.11後のアメリカで議論が重ねられてきた「強制尋問」をめぐるさまざまな言説を詳細に検討し、「人間らしく暮らせる」世界のありかたを探る。



【目次】

序 拷問という難題

第1章 「拷問国家」アメリカの長い歴史

第2章 拷問に奉仕する法学者たち

第3章 アメリカは世界中で拷問を行なう

第4章 時限爆弾が仕掛けられたというたとえ話

第5章 高貴な拷問人

第6章 悪は善ではない

第7章 常軌を逸した寓話

第8章 無益な拷問

第9章 交渉の余地がない原則に固執する

第10章 非合法的な国家

【著者】ミシェル・テレスチェンコ (Michel Terestchenko)

1956年、ロンドン生まれ。パリ政治学院卒。哲学博士。現在は、ランス大学で教鞭をとる。最新刊に、Ce bien qui fait mal à l'âme : La littérature comme expérience morale (2018年、『魂を傷つけるこの善——道徳体験としての文学』未邦訳)がある。他に、L'ère des ténèbres, 2015, Leçons de philosophie politique moderne, Les violences de l'abstraction, 2013など多数。また、『ル・モンド』紙をはじめとする一般紙に、政治や民主主義に関する論説を数多く寄稿する。本書が初の邦訳書となる。

【訳者】林 昌宏 (はやし まさひろ)

1965年名古屋市生まれ。立命館大学経済学部卒。翻訳家。訳書にボリス・シリユルニク『憎むのでもなく、許すのでもなく』、同『心のレジリエンス』、マリー・ドゥリュ＝ベラ『世界正義の時代』(ともに吉田書店)、ダニエル・コーエン『経済成長という呪い』(東洋経済新報社)他多数。

ご注文は㈱JRCへ TEL03-5283-2230

FAX: 03-3294-2177

書店印	ご注文	吉田書店発行	ミシェル・テレスチェンコ著 林昌宏訳 定価 2,800円+税
		拷問をめぐる正義論——民主国家とテロリズム	
	冊	ISBN 978-4-905497-65-3 C1031	

吉田書店 〒102-0072 東京都千代田区飯田橋2-9-6 東西館ビル本館32 TEL03-6272-9172